

2. 社会支出と国際比較

(1) 政策分野別社会支出

2018年度の社会支出を政策分野別にみると、「高齢」が最も多く（46.0%）、次いで「保健」（33.6%）、「家族」（7.2%）、「遺族」（5.2%）、「障害、業務災害、傷病」（4.8%）、「他の政策分野」（1.3%）、「失業」（0.7%）、「積極的労働市場政策」（0.7%）、「住宅」（0.5%）の順となっている。

表4 政策分野別社会支出

社会支出	2017年度	2018年度	対前年度比	
			増加額	伸び率
	億円	億円	億円	%
合 計	1,241,845 (100.0)	1,254,294 (100.0)	12,449	1.0
高 齢	569,397 (45.9)	576,766 (46.0)	7,369	1.3
遺 族	65,618 (5.3)	65,074 (5.2)	△ 544	△ 0.8
障害、業務災害、傷病	58,923 (4.7)	60,810 (4.8)	1,888	3.2
保 健	418,871 (33.7)	421,870 (33.6)	2,999	0.7
家 族	86,451 (7.0)	90,547 (7.2)	4,096	4.7
積極的労働市場政策	8,141 (0.7)	8,376 (0.7)	235	2.9
失 業	8,430 (0.7)	8,535 (0.7)	105	1.2
住 宅	6,131 (0.5)	6,084 (0.5)	△ 47	△ 0.8
他の政策分野	19,881 (1.6)	16,231 (1.3)	△ 3,650	△ 18.4

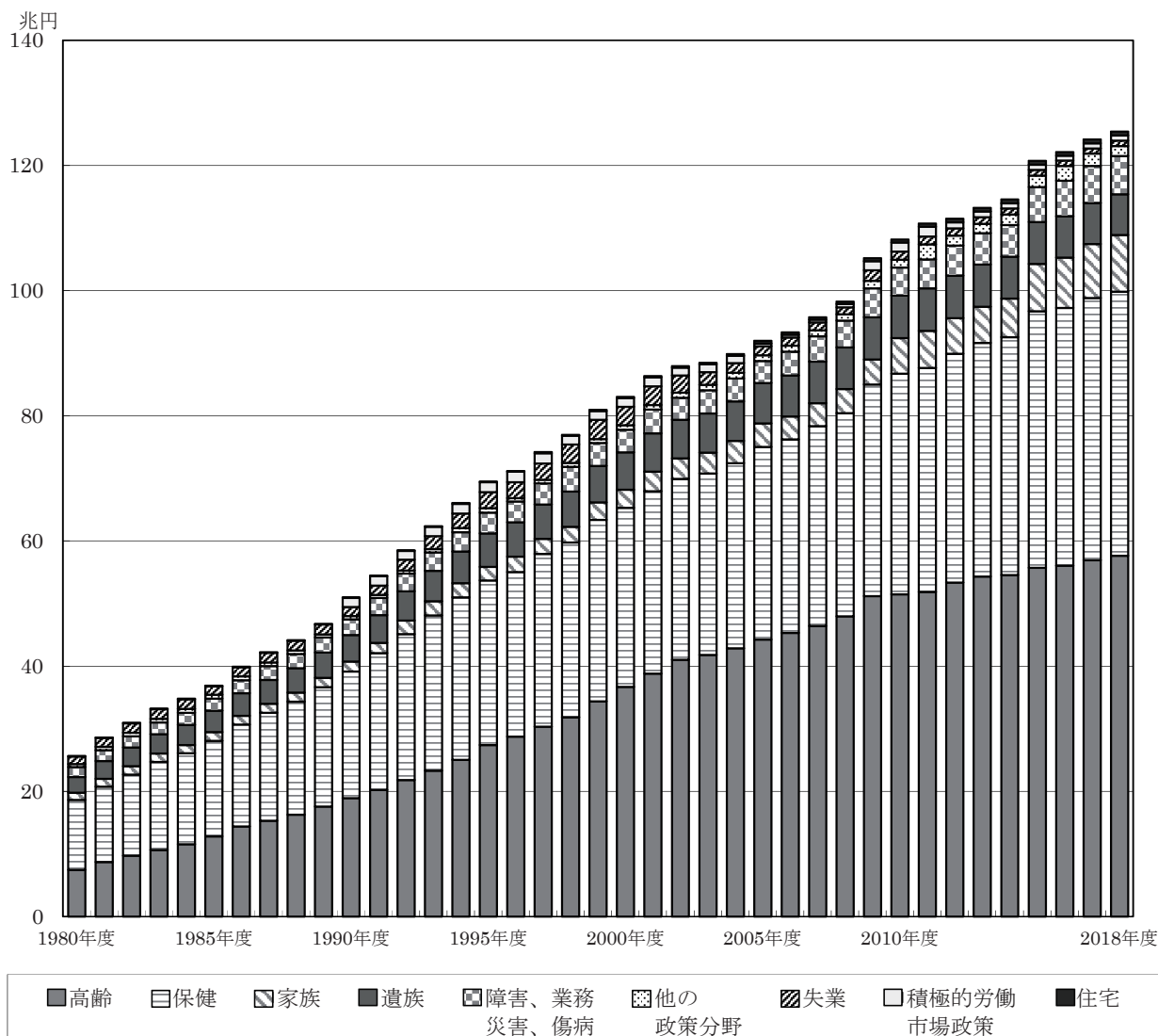
(注)

1. () 内は構成割合である。
2. 政策分野別の項目説明は、56-68頁を参照。

表5 政策分野別社会支出の対国内総生産比

社会支出	2017年度	2018年度	対前年度増加分
	%	%	%ポイント
合計	22.68	22.87	0.19
高齢	10.40	10.52	0.12
遺族	1.20	1.19	△ 0.01
障害、業務災害、傷病	1.08	1.11	0.03
保健	7.65	7.69	0.04
家族	1.58	1.65	0.07
積極的労働市場政策	0.15	0.15	0.00
失業	0.15	0.16	0.00
住宅	0.11	0.11	△ 0.00
他の政策分野	0.36	0.30	△ 0.07

図1 我が国の政策分野別社会支出の推移



(出所) 31頁「第1表 政策分野別社会支出の推移」より作成。

(2) 社会支出の国際比較

諸外国の社会支出を対国内総生産比で見ると、2017年度時点で日本は、イギリスより大きいですが、フランス（2015年度）、ドイツ、スウェーデン、アメリカと比較すると小さくなっている。

図2 政策分野別社会支出の国際比較（2017年度）

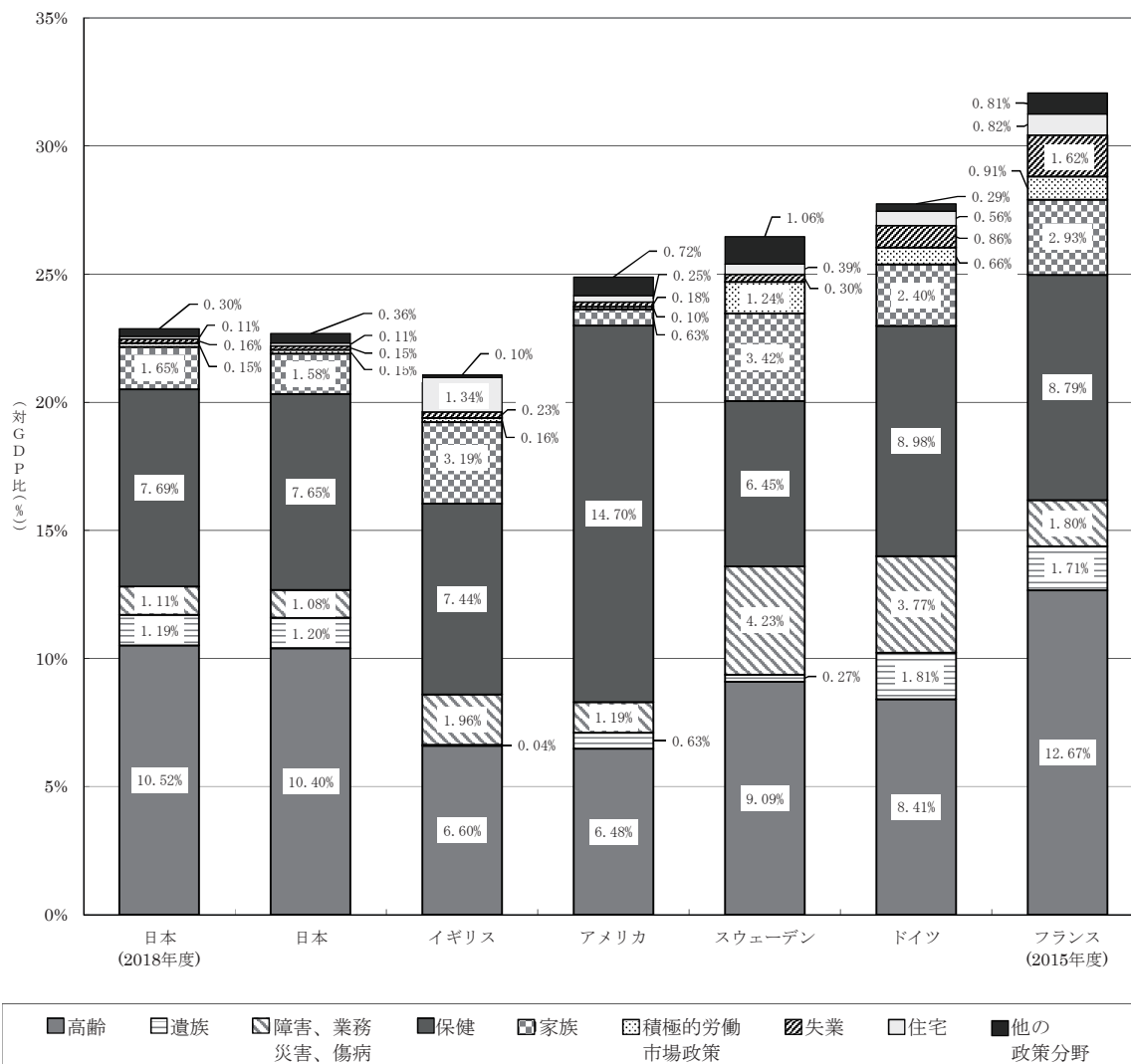


表6 社会支出の国際比較（2017年度）

社会支出	日本 (2018年度)	日本	イギリス	アメリカ	スウェーデン	ドイツ	フランス (2015年度)
社会支出 対国内総生産比	22.87%	22.68%	21.07%	24.88%	26.46%	27.75%	32.06%
(参考) 対国民所得比	31.03%	30.98%	29.26%	31.44%	41.26%	37.07%	44.96%

(注) アメリカについては、2014年にいわゆるオバマケア（Patient Protection and Affordable Care Act）が施行され、個人に対し医療保険への加入が原則義務化されたことに伴い、それまで任意私的支出（Voluntary Private Expenditure）とされてきた民間の医療保険支出が、義務的私的支出（Mandatory Private Expenditure）として社会支出に計上されることになった。

(資料) 諸外国の社会支出は、OECD Social Expenditure Database（令和2年6月29日時点の暫定値）による。国内総生産・国民所得については、日本は内閣府「平成30年度国民経済計算年報」、諸外国はOECD Annual National Accounts Database（令和2年6月11日閲覧）による。

(出所) 上記資料より国立社会保障・人口問題研究所が作成。

図3 政策分野別社会支出の構成割合の国際比較（2017年度）

